

式 辞

朝晩まだまだ厳しい寒さが続いています、日中の日差しに春の訪れを実感できる季節となりました。

三年前、若々しく無限の可能性に満ちた新入生としてお迎えした皆さんの旅立ちをお祝いする日となりました。大阪府立懐風館高等学校第七期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

晴れの日も雨の日も、暑い日も寒い日も本校に通い続け、友とともに学び、友とともに育ち、友とともに泣き、友とともに笑った日々は、すべてが皆さんにとってかけがえのない宝物となり、203冊の「こころのアルバム」に綴じられました。本日そのアルバムの最後のページが埋められます。皆さんのこれまでの努力を讃え、その門出を心から祝福したいと思います。

保護者の皆さまにおかれましても、長きに渡る子育ての一区切りとなる今日の佳き日を迎えられ、そのお慶びはいかばかりかと存じます。式辞の始めにあたりお祝い申し上げます。

申し遅れましたが、本日はご多用の折にもかかわらず、本校卒業生の門出をお祝いくださるために、大阪府教育委員会ご代表をはじめ、様々な方面から懐風館高等学校を支えていただいております皆さま方にご臨席を賜り、高壇からではございますが、厚く御礼申し上げます。まことにありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん、私は三年前の入学式において、「皆さんは、自分がなんのために生きているのか。何を目的として、何をするために生き、勉強しているのか考えたことがありますか？目的のない人生は空しく、なすべきことの無い日々は無駄だ」とお話ししました。あれからおよそ三年が過ぎました。みなさんは、自分の目的を見つけ、充実した日々を過ごしてきましたか？それとも、何一つ明確な目的や生きがいを発見することなく、過ごしてきましたか？再び出発の門出に立つ今日という日に、この三年間をじっくり振り返ってみてください。「永遠に生きるという覚悟で日々努力し、今日で終わるという思いで必死に生きなさい。」という言葉があります。今日という日がみなさんにとって忘れることのできない大事な一日になるよう、私からみなさんに伝える最後のお話をしたいと思います。

皆さんは、教育は何のために必要だと思いますか？この答えは意外と簡単です。「何が真実で何が嘘であるかを判断できる力を養うために教育は必要なのです。」では、次に「何が真実で何が嘘であるか、さらに真偽の判断ができないものとはなんなのか」考えてみてください。もし、「今の職業以外にやってみたい仕事はありますか？」と問われたら、私は、即座にこう答えます。「警察関係・探偵・弁護士・科学者・医師など、真実は何かを科学

的に追い求める仕事に就きたい」と。しかし、実際に何通りもの人生を生きることにはできません。よって、我々は古来より小説・演劇・映画・ドラマ等によって、自分とは違う生き方をする人々の人生を、まるで自分の物として夢中になって鑑賞してきたのです。シャーロックホームズの時代から、このような物語の主人公たちは、一様に「私が知りたいのは真実です。実際に何が起きたのかを知りたいのです。」と。テレビドラマを例にしても、福山雅治は科学者として、石原さとみは法医学者として、松本潤は弁護士として、毎回このようなせりふを吐きます。これは、何を表していると思いますか？世の中は、真実でないことが蔓延しているということを表しているといえないでしょうか？アメリカ合衆国のドナルド・トランプ大統領は「フェイクニュース」という単語を多用しますが、これは「虚偽の情報によってつくられたニュース」という意味です。「オルタナティブ・ファクト」つまり、「もう一つの事実、違う面から見たもう一つの事実」が存在しているにも関わらず、偏見やある意図をもって故意に作られたニュースという意味です。私自身も何度もこのようなニュースに憤りを感じたことがあります。「何が正しいのか？」という命題は、私がこれまで生きてきた中で最も難しい命題です。証言の食い違いなどから、真相が不分明になることを称して「藪の中」といいますが、これは芥川龍之介が

一つの殺人事件の4人の目撃者と三人の当事者の証言がことごとく食い違い真相がわからなくなるという短編小説が語源となっています。このような小説ができるほど「事の真相というのはわかりにくく多元的である」ということです。私の結論は、「自分が正しいと判断したことが正しい」と考えるしかないということです。私がこれまでに見てきたもの、聴いてきたもの、読んできたもの、教えられてきたもの、それらすべてが私の判断基準であり、それに基づいて判断するしかないからです。つまり、私が生まれ育った家庭や地域や学校や職場において、学んできたもの、身につけてきたこと、学習してきたこと、習得してきたこと、それらが私の「真実」なのです。私のビッグデータを構成するものは教育の賜物なのです。そこから私は事の是非を判断し生きています。みなさんも、自分の「真実」を追い求めてください。見聞を広め、いっぱい経験をし、考え、判断し、行動してください。

最後になりますが、どうしてもみなさんにお伝えしたいことがあります。感謝とお詫びです。みなさんは、入学式の日から本日まで、三年間私が校長としてかかわってきた初めての学年です。入学者選抜の日から、卒業式まで、ずっといっしょにいました。三年生の最後にあたり、学校教育自己診断というアンケートに回答してもらいましたが、その結果は、過去最高に高

い結果となりました。「学校に行くのが楽しい」「懐風館高校に入学してよかった」と回答してくれた人も過去最高に高い割合でした。三年間いろんな出来事があり、特に今年度後半には、みなさんを動揺させ嫌な思いをさせることもありました。三年生にとって最も大事な進路を決定する時期でもありました。動揺しながらも、みなさんは進路に向けて頑張ってくれました。その頑張りに感謝し、最大限に評価します。そして、大事な時に動揺させて申し訳ありませんでした。最後の日にどうしてもお詫びと感謝の言葉を伝えなかったのです。本当に、ありがとう。そして、ごめんなさい。わたしは、みなさんが大好きで、誇りに思っています。これを皆さんに贈る最後のメッセージとします。

改めまして、保護者の皆さま、お子様のご卒業まことにおめでとうございます。

「懐に 抱きしわが子 旅立たん 学びの館 春風香る」

梅の香りがほのかに香る季節、鶯のさえずりとともに羽ばたいていかんとするお子様の今後の成功をお祈りいたします。また、これまで本校の教育活動に対し、物心ともにご協力・ご支援いただきましたこと深く感謝申しあげます。本当にありがとうございました。

本日卒業していく若人が、懐風館での日々を懐かしみながら、

無限の広がりをもつ世界に翼をひろげ、はばたいていかんとすることを祈念し、本日の式辞といたします。

平成30年2月28日

大阪府立懐風館高等学校長 羽田 真